

子どもの幸せと健やかな成長のために

家庭教育の すすめ



金沢市教育委員会

はじめに

小学生から中学生にかけて、子どもは急速に世界を広げ、心身ともに大きく成長していきます。そしてその成長の速さ故に、親も子もとまどうことがしばしばあることでしょう。この「家庭教育のすすめ」は、そのような小学生～中学生の子どもを持つお父さん・お母さんに向けて、家庭での教育やしつけに関して、それぞれの家庭で考えていただきたいことをまとめたものです。ぜひ、ご家族のみなさんでお読みいただき、子育てのヒントにしてください。

子どもを育て、その成長を見守ることは、たいへんなことですが、大きな喜びや楽しみを運んでくれることでもあります。この冊子が、みなさまの家庭教育の一助となれば幸いです。

目次

はじめに	
目次	
金沢子ども条例	1
確認してみませんか？ あなたの家庭教育	2
基本的な生活習慣を身に付ける	4
家庭のルール・社会のルールを身に付ける	6
家庭内のコミュニケーションを大切にする	8
自主性・自立性を身に付ける	10
人権の尊重・環境の保護の意識を高める	12
子どものサインを見逃さない	14
読書の大切さと子育ての名言	16
家庭教育を考えると参考になる本・ビデオの紹介	17

子どもたちを市民みんなで育てていくことをめざして

金沢子ども条例

〈子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例〉

基本理念

金沢コミュニティを形成する
家庭、地域、学校、企業、行政等のすべてが

子どもの育成に責任があることを認識し、
主体的に子どもの育成に関わる

共通認識を持ち、相互に連携し、協力して
子どもを育てる

子どもの人格を尊重し、子どもが様々な権利を有していることを認識する

- 自ら考え、判断し、行動する力
- 健やかで思いやりのある心
- 金沢を愛する心
- 社会の一員としての責任感
- 世界に通ずる広い視野と豊かな国際感覚

を持つ子どもを育てる

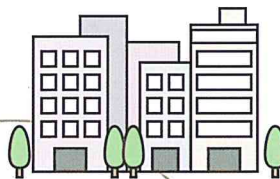
大人の行動等が子どもに大きな影響を与えることを認識し、一人ひとりが自らの行動を省みる

大人の責務

- 子どもの育成に最も大きな責任を負う
- 愛情を持って子どもに接する
- 基本的な生活習慣や社会的な決まりを守る意識を子どもが身に付けることができるようにする
- 干渉を控える一方、放任とならないよう家庭内のコミュニケーションを大切に



家庭



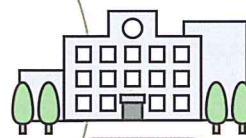
企業

- 企業で働く保護者が子どもとの関わりを深めることができるよう配慮する
- 子どもの職場体験活動の受け入れなどへの協力に努める



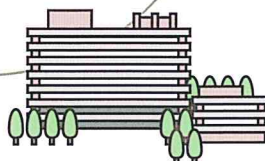
地域

- 子どもの育成のために住民や関係団体がお互いに協力する
- 子どもの地域行事への参加や社会体験活動など地域での子どもの育成活動を積極的に進める
- 子どもの見守りや声かけなどを通して子どもとの関わりを深める



学校等

- 幼稚園・保育所 集団の中での遊び等を通して基礎的な社会性を育む
- 小学校・中学校等 社会性、基礎学力、自ら学び、考える力などを子どもが身に付けることができるようにする



行政(市)

- 家庭、地域、企業、学校、行政等が一体となって子どもの育成を推進するための施策を実施する
- 家庭、地域、企業、学校等の連携・協力のための調整を行う

確認してみませんか？ あなたの家庭教育



番号	内 容	○
1	お子さんは、毎日朝ごはんを食べている	
2	お子さんは、余裕を持って起きている	
3	お子さんは、早く寝る方である	
4	家庭での学習時間、遊びの時間等がほぼ決まっている	
5	家族がお互いにあいさつしている	
6	お小遣いについての決まりがある	
7	TV・ゲームの時間、門限、手伝い等の決まりがある	
8	悪いことをしたらその場できちんと叱っている	
9	携帯電話やインターネット・電子メールの使い方について話し合っている	
10	親自身、社会のきまりを守っている	
11	お子さんの話をよく聴くようにしている	
12	お子さんと一緒に過ごす時間を持つように心がけている	
13	お子さんの友達の名前を4人ぐらいは言える	
14	読み聞かせや囲碁・スポーツなどお子さんと共に遊ぶようにしている	
15	お子さんの長所を伸ばし、ほめるようにしている	
16	お子さんは、近所の友達とよく遊んでいる	
17	お子さんは、子ども会の行事等、地域の行事によく参加している	
18	お子さんは、体験できる活動に進んで参加している	
19	親は、子ども会の世話など地域の子どものためになる事をしている	
20	親は、地域の行事にできるだけ参加している	
21	お子さんに、生命の大切さを折りにふれ話している	
22	お子さんの友達関係について関心を持っている	
23	お子さん自身が安全な行動がとれるよう指導している	
24	家族が協力して子育てしている	
25	ゴミの分別など環境の大切さを、折にふれ話し、自ら実行している	

気になる項目について 考えてみましょう



基本的な生活習慣

生活のリズムを整えることは、基本的な生活習慣を身につけるための基本であり、その鍵は十分な睡眠と食事、特に朝食にあります。また、子どもが家庭で役割を担うことは、自立への第一歩です。

4, 5

家庭のルール・社会のルール

家族で話し合った約束ごとをお互いが守ることを通して、自分を律しルールを重んじる心を育てます。子どもの発達に応じて、守るべきルールを丁寧に伝える努力が大切です。

6, 7

家庭内のコミュニケーション

あいさつはコミュニケーションの基本です。また、家族が共に過ごす時間を増やす工夫、お互いが自分を出し合える会話、そして、それぞれの居場所の確保が豊かな家族関係を築きます。

8, 9

自主性・自立性・体験

多くの人とのつながりと出会いの中でこそ、大人も子どもも成長できます。子どもの意欲と関心を引き出し高める様々な体験の場と機会が、感動する心を育て個性を育みます。

10, 11

人権の尊重・環境保護

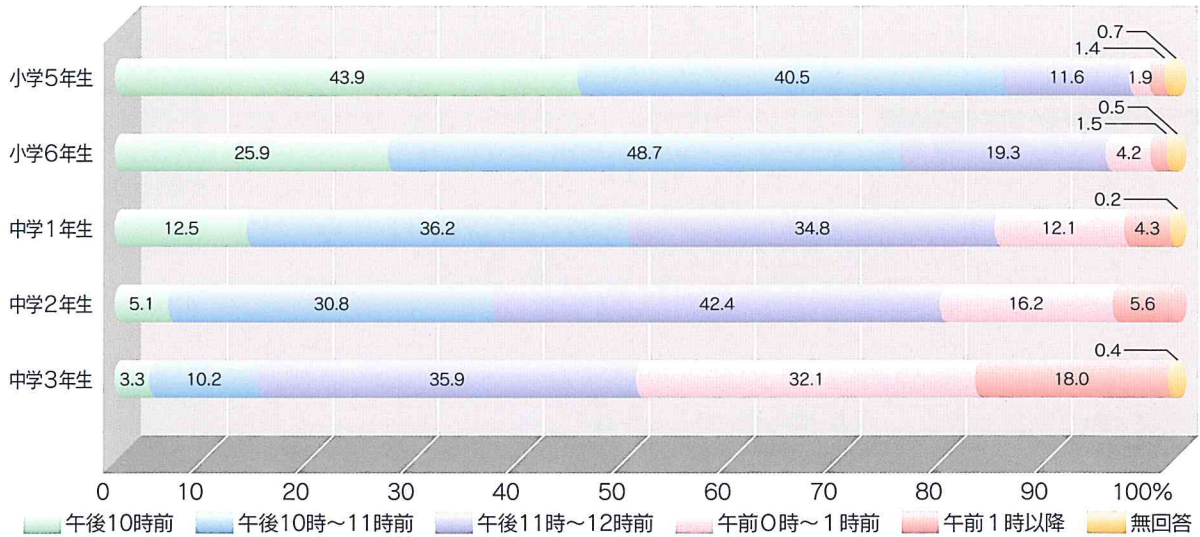
個人として尊重され、「かけがえのない存在」であることを日々実感できることが、子どもの「人を思いやる気持ち」を育てます。生活の中で、環境や生命の大切さ、そしてだれもが幸せである権利があることを学び合う工夫をすることが求められます。

12, 13

基本的な生活習慣を身に付ける

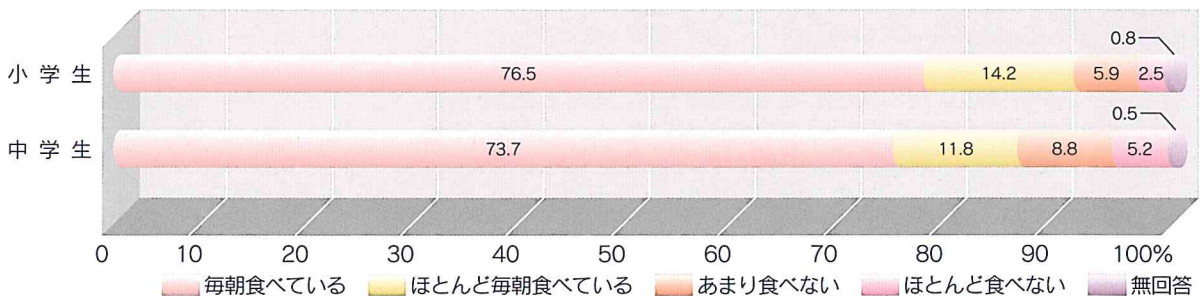
子どものようす

● 学校のある日、いつも何時ごろ寝ますか（学年別）



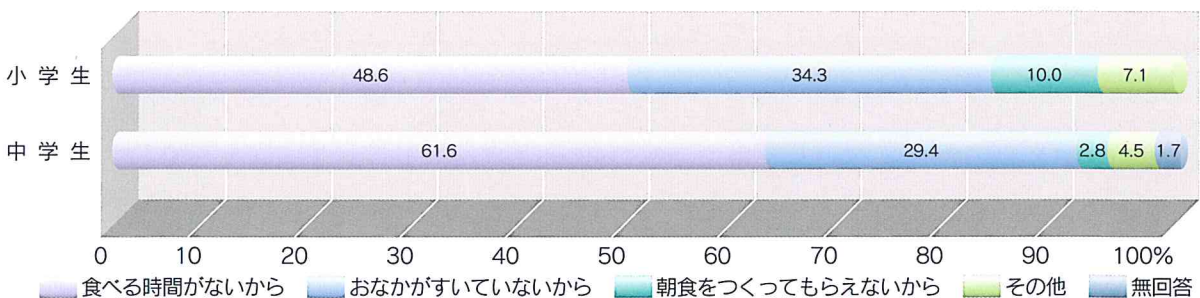
※「午前0時以降」は学年が上がるにつれて大きく増え中3では半数にもなる。

● 学校のある日、朝食をとっていますか（小中学生別）



※「あまり食べない」「ほとんど食べない」まま一日の学校生活を始める子どもが小学生で約8%、中学生で約14%いる。

● 朝食を食べない理由（小中学生別）

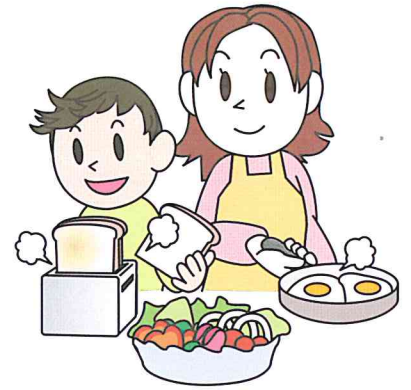


※小学生で「朝食をつくってもらえないから」が10%いる。

「食べる時間がないから」「おなかがすいていないから」は、前日の就寝時刻の遅さに起因すると考えられる。

(平成13年度小・中学生の生活意識調査－金沢市教育委員会)

どうしたらいいの？



睡眠時間が十分にとれるようにしましょう

子どもの成長・健康・活力のため十分な睡眠時間の確保が必要です。

個人差はありますが、望ましい睡眠時間は小学生で9～10時間ぐらい、中学生で7～8時間ぐらいといわれています。同じ睡眠時間でも、早寝早起きのほうが遅寝遅起きより良い睡眠だそうです。

気持ちよくあいさつをしましょう

あいさつはコミュニケーションの出発点であり、ぜひ習慣にしたいものです。大人からも率先して声をかけあいましょう。

朝食をしっかりとるようにしましょう

■朝食を食べると…

- 消化器系が刺激を受けて、排便がうながされます。
- エネルギーが作りだされ、元気に活動できます。
- 脳にエネルギーが届き、頭もすっきり目覚めます。
- 睡眠中に下がった体温が上昇して、体が目覚めます。

■朝食を食べないと… 夕食を7時に食べたなら、翌日の給食までは17時間もありません。

- 睡眠中もエネルギーは使われているので、朝食で補わないと不足状態になります。
- 脳もエネルギー不足、集中力記憶力も低下し、イライラすることにもなります。
- 貧血、腹痛、体のだるさなど、体調不良の原因になります。

■朝食をおいしく食べるには…

- 夜ふかしをしない。
- 夜食をしない。
- 早起きをし、体を動かす。

朝食の中身と時間の工夫を

あまり時間のない朝です、簡単にできて、しかも栄養ある朝食を工夫する事が大事です。子どもと一緒に作ったり、周りの人と情報交換ができれば良いですね。

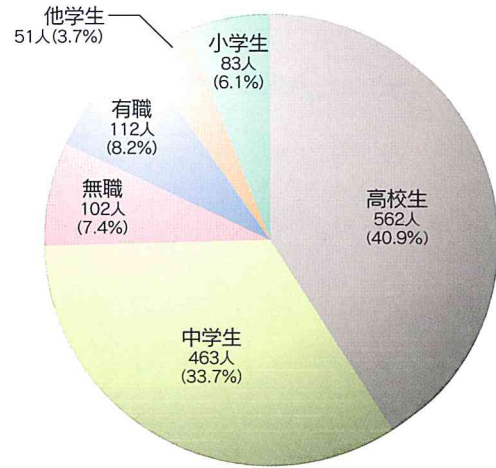
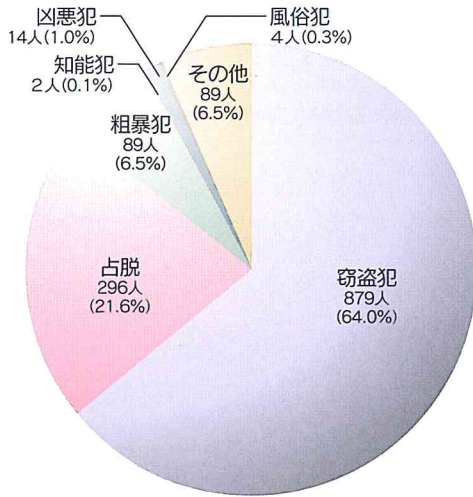
朝食の後の歯みがきも忘れずに…。

基本的な生活習慣を身に付けることは、成長の基礎とされています。基本的な生活習慣には、他に**手伝い、学習時間、遊び、読書、テレビ視聴**等々の要素があります。子どもの成長にあわせて、指導、助言、励ましが必要です。

家庭のルール・社会のルールを身に付ける

子どものようす

● 平成15年中刑法犯少年(石川県内の19才まで) 1,373人



窃盗とは、万引・自転車バイク盗・どろぼう等のことを言います。

占脱とは、占有離脱物横領すなわち、他人が忘れたり、落とした物を警察に届けずに、勝手に横取りすることを言います。放置自転車を乗り回すことも含まれます。

粗暴とは 暴行・障害・脅迫・恐喝等を言います。

知能犯とは詐欺・偽造等のことを言います。

非行の中心は万引き、乗り物盗

罪の意識が低くてゲーム感覚で万引きする子どもも見られます。

万引きは犯罪ですし、さらに大きな犯罪につながる危険性があります。

(石川県・石川県警察本部発行パンフレット「なくそう非行」より)

● この先、万引きをしてしまうかもしれないと思うか (中学生)

	全体	男子	女子	1年	2年	3年
ぜったいしない	65.8	60.4	71.4	67.3	69.3	61.1
たぶんしない	24.5	27.5	21.3	27.2	21.9	24.3
もしかしたら、してしまうかもしれない	6.5	8.4	4.4	4.2	6.3	8.7
してしまうかもしれない	3.2	3.6	2.8	1.2	2.5	5.8

● 友だちづきあいとは何か (中学生)

	全体	男子	女子	1年	2年	3年
悪いことでも一緒にする	19.0	25.2	12.6	15.1	18.6	23.0
ぜったいケンカをしない	34.0	43.4	24.2	35.6	33.2	33.2
自分の弱点は見せない	35.6	43.7	27.2	35.7	35.2	36.0
悪いところは注意してあげる	82.2	77.9	86.6	81.7	84.4	80.6
どんな悩みでも相談できる	87.8	84.0	91.5	87.5	89.9	85.9

首都近郊公立4中学校1年～3年1,500名

資料はベネッセコーポレーション ベネッセ未来教育センター「モノグラフ中学生の世界」より

どうしたらいいの？



我が家の生活の約束事やルールをつくろう

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつ、寝る時間等の生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかない等といった道德上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身に付けさせるためにも、家族がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに大人もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

子ども部屋のルールを決めよう

■ 子ども部屋の問題点

子どもが閉じこもる・親の注意が行き届かない・親子の会話が減る等、最近は子どもに個室を与えることの問題点が指摘されています。

■ 子ども部屋のルールが必要

居間に顔を出してから部屋に入る・部屋に鍵をかけない・友人は部屋に入れる前に親に紹介する。親はその責任として、必要な時に子ども部屋に入ることができるルール等、子ども部屋を閉ざさないルールづくりをしましょう。

お金の大切さや我慢することの必要性を話し合おう

子どもの良いところはしっかり褒め、悪いことやしてはいけないことをしたときは、その場できちんと叱りましょう。子どもの持ち物に注意を払いましょう。また、お金の使い方やしぐみについて日頃から話し合い、万引きは犯罪であり、恥ずべき行為であることを話しましょう。

携帯電話やパソコンのルールを話し合おう

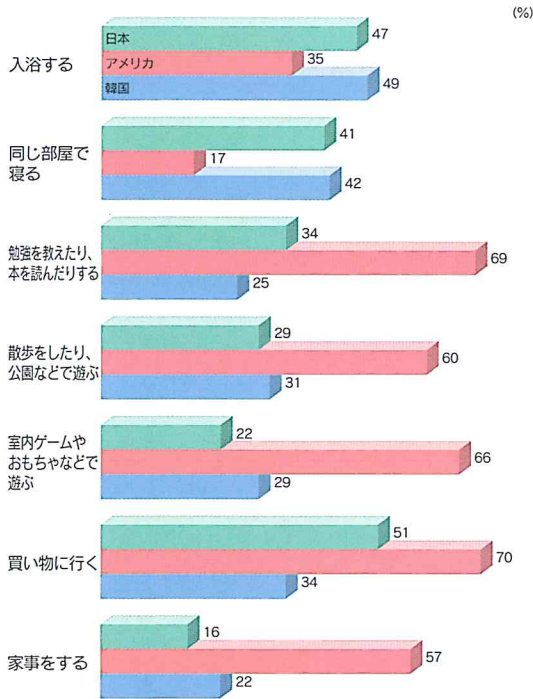
携帯電話やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、子どもの身を危険にさらす道具にもなります。

「なぜ、使用したいのか」などについて親子で話し合ひましょう。使うときは、使用場所や使用時間、使ってよい目的などについてのルールを最初に家庭で決めましょう。また公共のマナーや知らない人からメールがきたら返信しない等、危険からの自己防衛の仕方も教えましょう。

家庭内のコミュニケーションを大切にする

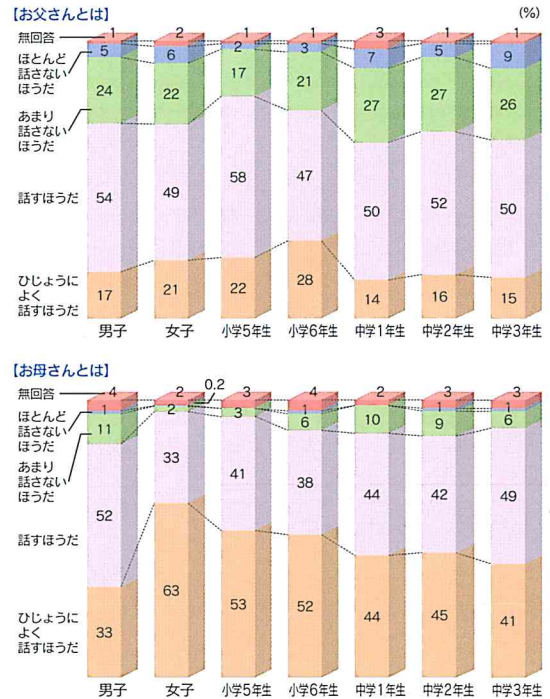
子どものようす

● 少ない親子の共同行動 (図1)



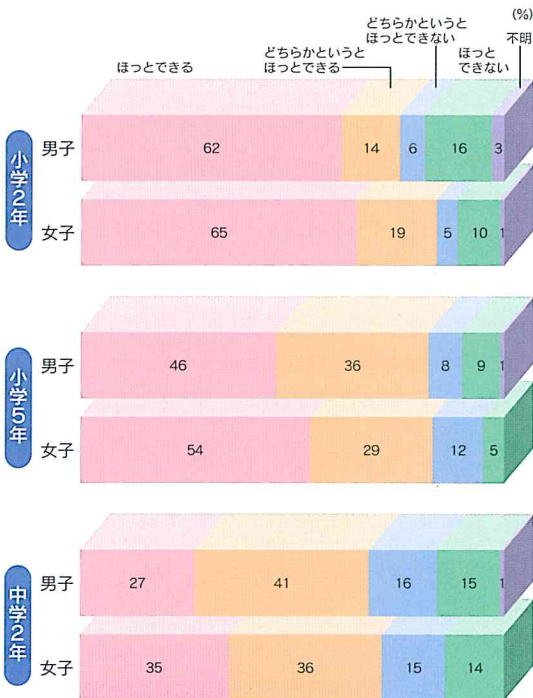
総務庁青少年対策本部「子供と家族に関する国際比較調査」(1994年)

● 父親との会話が少ない (図2)



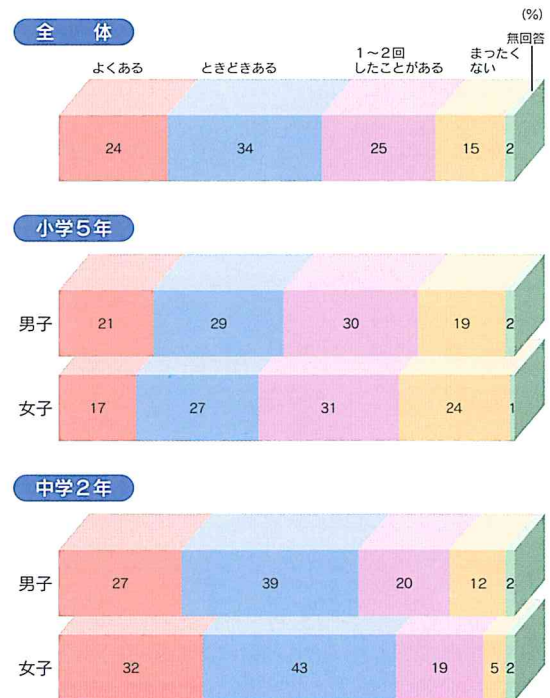
埼玉県環境生活部「埼玉青少年の意識と行動調査」(1998年)

● 安らぎの場ではなくなる家庭 (図3)



大阪教育文化センター「家庭調査」(1998年)

● 親に対してのいらだち感 (図4)



東京都生活文化局「第8回東京都子どもの基本調査」(1998年)

どうしたらいいの？



安らぎのある楽しい家庭をつくろう

いくつもの調査で、家庭に対して子どもが一番望んでいるのが「家族がみんな楽しく過ごす」です。ところが左ページの図3・4で見る限り中学生ともなると、家にもほっとできない子どもが3割、ときどき親に対していらだちを感じる子が9割もこえていることが示されています。家族であれば自然に安らげたというのは昔の話、今は、安らぎさえも、積極的に作り出さなければならぬ時代になってきたようです。

家族がともに過ごす時間を増やし、子どもと積極的に関わろう

左ページ図1に見られるように、日本の親は、入浴・就寝など日常生活に関しては、親子関係は一見密接という感じがします。しかし勉強を教えたり、一緒に遊んだりしたりして積極的にコミュニケーションをはかるといことは少ないようです。また、家族全員で夕食を取る日を決めるなど、できるだけ一緒に食事をし、お互いにその日にあったことを話し合ひましょう。

■お父さんの出番を増やそう

左ページ図2を見ると、父親との会話が少ないことが目を引きます。父親がもう少し子どもへの関心を高め、積極的に関わりを持つことが望まれています。

■家族共通の話題を持とう

手伝い・趣味・スポーツ・地域の行事・学校のこと・ボランティアなど家族で楽しく話し合える話題を持ちましょう。

(財団法人 日本女性学習財団編「小中学生は今」より)

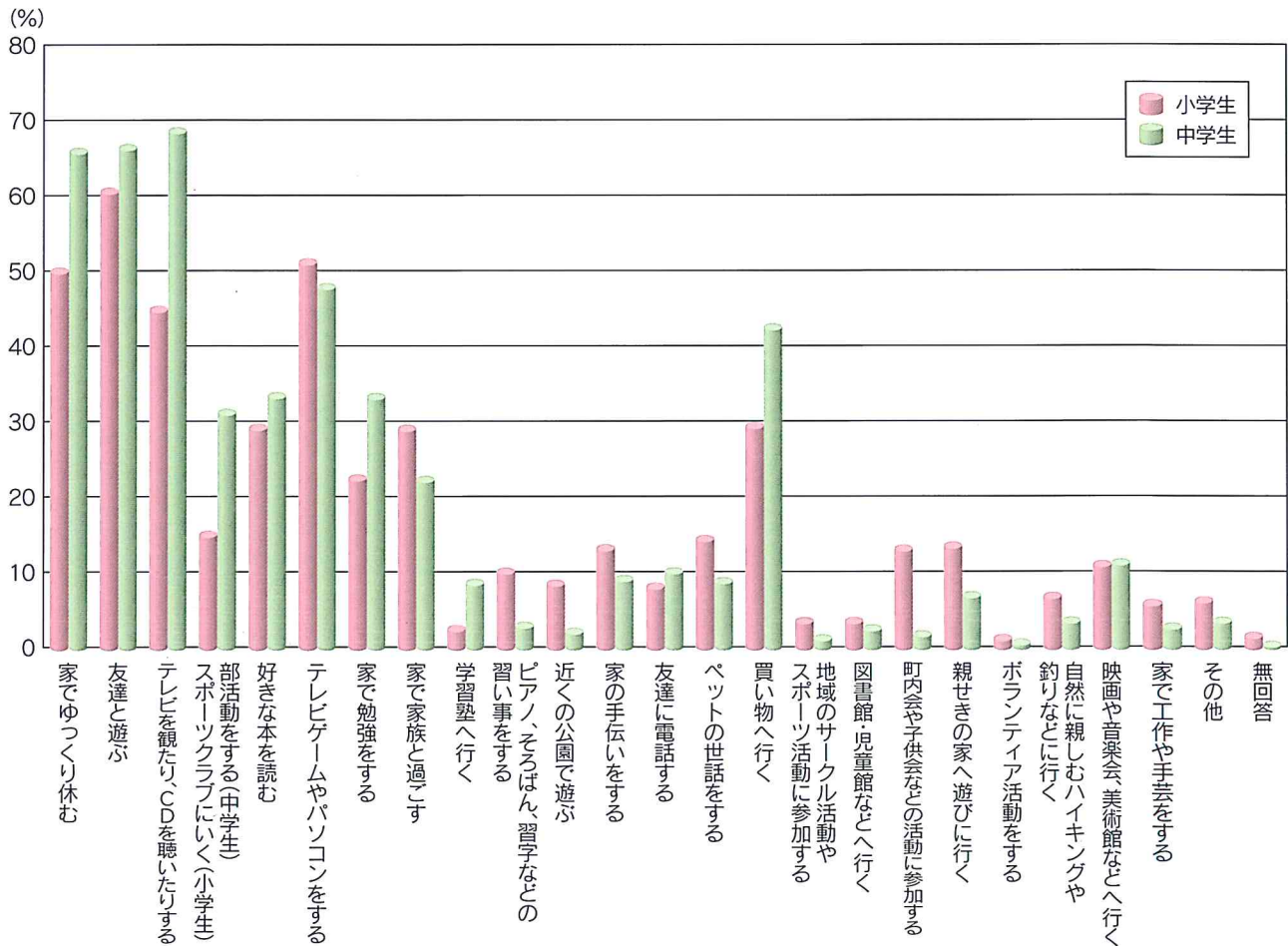
日頃から、子どもが安心感を持つ聞き方、話し方をしよう

- 子どもが自分で問題点をとらえ、解決する力をつけるためには、親の言いたくなる気持ちを押しさえて、まず子どもの話をじっくり聞きましょう。
- 子どもの話すことに深く関心を示し、うなずきながら聞く。時には、子どもの言葉を繰り返すなどして子ども自身が話したいことをはっきりさせる。そして結論を急がない。結論は、子どもが自分の力で出せるよう心を配りましょう。
- 子どもが話をしたそうにしていたら、時間をかけて、ゆっくり聞いてあげましょう。その時、親の気持ちの中に「子どもは、一人ひとり違う」「子どもはできなくてあたりまえ」という考えがあると余裕を持って聞くことができます。

自主性・自立性を身に付ける

子どものようす

● 休みの日は何をしてお過ごしことが多いですか（小中学生別）（複数回答）



少ない社会体験・自然体験

小学生で最も回答が多かったのは「友達と遊ぶ」の60.6%、中学生では「テレビを観たり、CDを聴いたりする」の68.6%である。小・中学生ともに高い回答率のものは、「友達と遊ぶ」、「家でゆっくり休む」、「テレビを観たり、CDを聴いたりする」、「テレビゲームやパソコンをする」である。

男女別にみると、小・中学生ともに「テレビゲームやパソコンをする」の選択は男子の方が多く、「買い物に行く」の選択は女子が多い。

また、「図書館・児童館などへ行く」、「近くの公園で遊ぶ」、「ボランティア活動をする」、「自然に親しむハイキングや釣りなどに行く」、「地域のサークル活動やスポーツ活動に参加する」といった地域の施設や自然や様々な人々とかかわりあう項目は10%に満たない。子どもたちが、休みの日に外へ出かけたり、人とふれあったりしたりするのは、「買い物へ行く」「友達と遊ぶ」ことが多い。

地域の人々とかかわり合う機会であろう「町内会や子供会などの活動に参加する」では、小学5年生が16.6%、小学6年生が9.3%、中学1年生が2.4%、中学2年生が1.8%、中学3年生が0.9%と急激に減少している。

（平成13年度小・中学生の生活意識調査－金沢市教育委員会）

どうしたらいいの？



過保護・過干渉はやめましょう

子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり(過保護)いちいちあれこれ指示する(過干渉)ことはやめましょう。

親の思いや考えを押しつけるのではなく、「あなたはどう思う？」と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、「お母さん(お父さん)は、こう思うんだけど」と、一緒に考え一緒に学んでいく姿勢が大切です。

子どもが自分で考え、勇気を持って行動し、達成感を味わう、または失敗から学び強くなるチャンスなどを子どもから奪わないように気をつけましょう。

家族で進んで、地域活動や学校行事等に参加しよう

多くの人とのつながりと出会いがある体験活動の中で、子どもは、感覚を働かせ、運動をし、物をつくり、想像します。そして自主性・自立性・協調性を身に付けます。最も手近な交流の場、地域活動や学校行事にまず親子で参加しましょう。親が楽しんで参加している活動には、子どもも自然と参加するようです。

さまざまな体験活動を通して、地域や社会のために何かをすることで、子どもは喜びを感じるという、人間としてごく自然なあたたかい感情がわき起こってきます。

そしてその喜びが、地域のリーダーとして活躍してみようという意識につながっていくことでしょう。

子どもたちが多様な活動ができる居場所をつくろう

調査をすると、あまり地域の活動に参加していない子どもが不参加の理由に「自分たちの興味のある活動が少ない」と答えています。子どもたちの考えも取り入れ、一緒に活動するなどして、子どもたちがのびのび遊べる場をつくりましょう。また様々な人々との多様な交流活動や親子で参加できる多彩な活動の機会や場をつくりましょう。

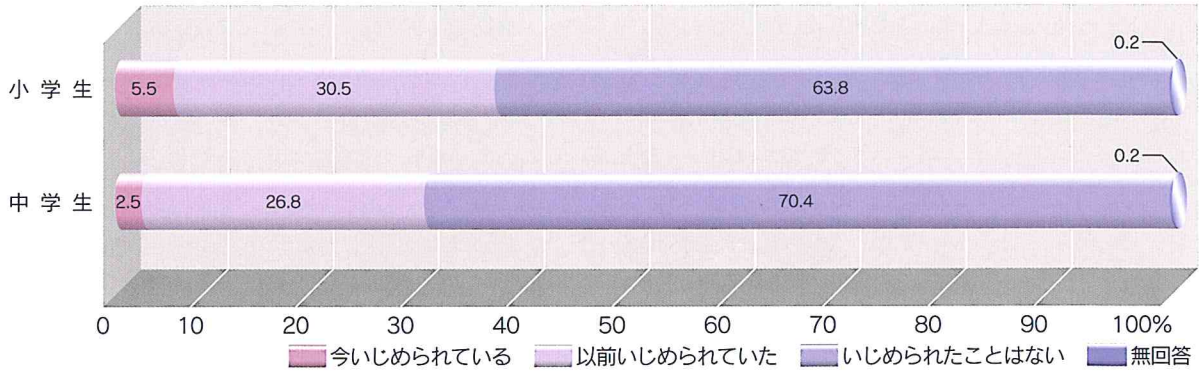
■ これまでの子どもの遊びの現状を振り返ってみよう

どろんこやがらくた、いろいろな遊びの素材から生まれる「アート」や「遊具」であったり、異年齢の子ども同士の「ルール」や「思いやり」など、子どもたちは自分たちで考え、気づき、居心地のいい「遊び場空間」を作り上げていきます。機会をつくって、こういう遊び場を子どもに体験させることも大切です。

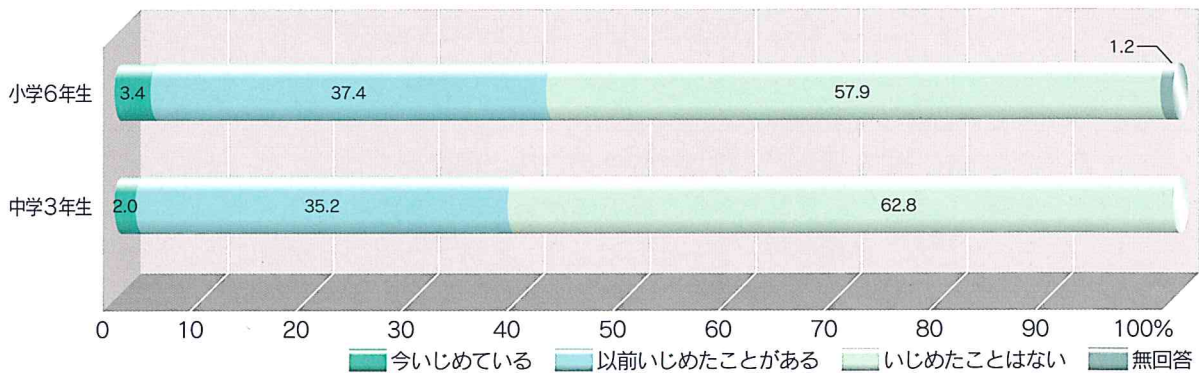
人権の尊重・環境の保護の意識を高める

子どものようす

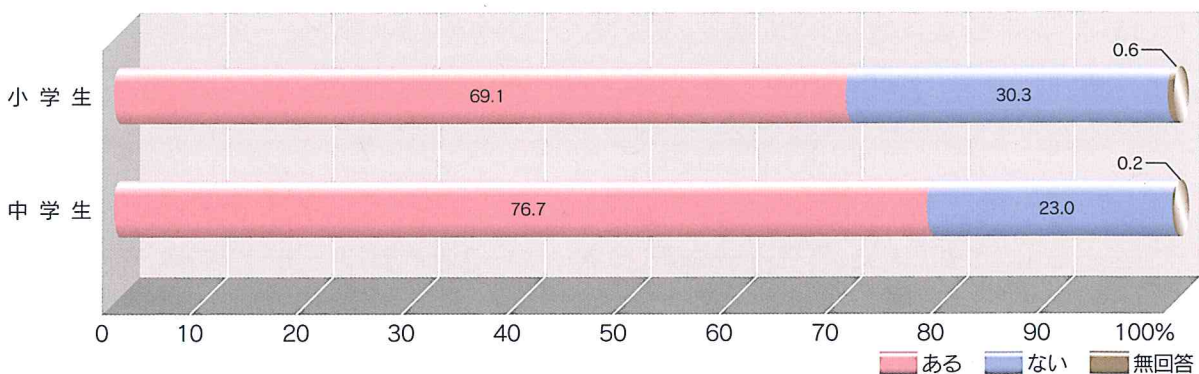
いじめを受けたことがありますか（小中学生別）



今までにいじめをしたことがありますか（小中学生別）



今までにいじめを見たことがありますか（小中学生別）



(平成13年度小・中学生の生活意識調査—金沢市教育委員会)

どうしたらいいの？



いじめをしない子を育てましょう

いじめは、力の弱い子どもや、まじめに努力する子ども、周りに安易に流されないため「異質」と見なされた子どもなどを標的にする卑怯な行い、人間として恥ずかしい行いです。悪いのはいじめられる子どもであって、「いじめられる側にもそれなりの理由がある」などということは全くの間違いです。いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみや痛みは深刻であることを理解させ、いじめめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを経験の中できちんと話し合ひましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、必ずすぐにやめさせましょう。またいじめられる子の中には、親から暴力や強いプレッシャーを受けるなど、家庭でも学校でも居場所がない子どもが多いと言われます。子どもが楽しむものを見つけ、心が満たされるように配慮するなど、いじめをしない心の環境づくりをしましょう。

差別をしない偏見を持たない子に育てましょう

親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、弱いものをいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としての本当の気持ちを伝える努力をしましょう。また、まず親自身が偏見を持たず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示しましょう。

子どもに命の大切さを実感させましょう

身近な人の死を目の当たりにすることが少なくなったり、殺人を繰り返すテレビやゲームなどで虚構の死に慣れたりして、子どもも大人も命の重さやかけがえのなさを感じにくくなっています。自然の中での体験活動に参加させたり、動植物を育てたりするなど、生き物の生命力と死にふれる機会を意識的につくり、子どもに生命の尊さや大切さを実感させましょう。

また、亡くなった人の家族や傷つけられた人の気持ちを一緒に考えるなど、その悲しみがどんなに深いものかを理解させましょう。

(文部科学省編「家庭教育手帳」より)

子どものサインを見逃さない

子どものようす

● 問題行動のサイン (あなたのお子さんの年齢で見てください)

ステージ	おまの年齢	問題行動の前兆現象	
		非社会的問題行動	反社会的問題行動
思春期	前思春期 0～11歳時	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・学校に行きたがらなくなる ・不自然な傷が身体についている ・自分の部屋にこもりがちになる ・成績が低下し始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・いじめる ・お金使いが荒くなる ・朝や夜の時間が不規則になる ・宿題をしなくなる ・学校の成績が下がり始める ・万引きなどに手を染め始める
	初期 12～13歳時	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・学校に行きたがらなくなる ・友だちの誘いがなくなる ・寡黙となる ・自分の部屋にこもりがちになる ・成績が低下し始める ・親など身内に乱暴を働く ・集中して何かを考え続けられなくなる ・絶え間なくいらだちを示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・いじめる ・お金使いが荒くなる ・朝や夜の時間が不規則になる ・成績が低下する ・クラブ活動から遠ざかる ・服装がくずれる ・飲酒・喫煙が始まる ・学校で問題視される子どもとつきあい始める ・普段の行動が投げやりがちになる
	中期 14～15歳時	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・学校に行きたがらなくなる ・友だちの誘いがなくなる ・寡黙となる ・自分の部屋にこもり始める ・親、特に母親を殴る ・成績が低下する ・「自分の未来」という時間を考える幅が短くなる ・体を硬直させる、逆に不安定に絶え間なく身体を動かす ・夜昼逆転の生活が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・いじめる ・お金使いが荒くなる ・朝や夜の時間が不規則になる ・成績が低下する ・クラブ活動から遠ざかる ・服装がくずれる ・飲酒・喫煙が始まる ・学校で問題視される子どもとつきあい始める ・普段の行動が投げやりがちになる ・盛り場で遊び始める ・「自分の未来」という時間を考える幅が短くなる
後期 16～18歳時	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行かない ・友だちの誘いがいない ・寡黙となる ・自分の部屋にこもる ・親、特に母親を殴る ・「自分の未来」を否定する ・体を硬直させる、逆に不安定に絶え間なく身体を動かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあう ・いじめる ・お金使いが荒くなる ・朝や夜の時間が不規則になる ・成績が低下する ・クラブ活動から遠ざかる ・服装がくずれる ・飲酒・喫煙が始まる ・学校で問題視される子どもとつきあい始める ・盛り場を徘徊し始める ・「自分の未来」を否定する 	

文部科学省編 ぎょうせい発行「思春期の子どもと向き合うために」

どうしたらいいの？

左の表を見るときポイント

- ①どんな問題行動についての対応か。
- ②どのくらい進行した問題行動か。
- ③主に何が原因となっている問題行動か。
- ④子どもは、思春期のどの段階にあるのか。
- ⑤子どもは男子か女子か。
- ⑥普段の父母との交流状況はどうか。

解決に向けての取り組み

- ①子どもと十分なコミュニケーションを取り合い、その存在を認める。
- ②子どもの危機から逃げずに、しっかりと問題に向き合う。
- ③夫婦関係をはじめ家族の絆について見直す。
- ④問題がはっきりと出た子どもには、しっかりと専門の方々と手を組む。

「教育プラザ富樫」 相談センター

243-0874

子育てや就学の心配ごとや悩みに、医師・心理士・専門スタッフ等がお話をうかがい、親身になり支援します。

一人で悩まず、相談を

子どもとの向き合いを経ても、なかなか好転しない時があります。その時には、しっかりと専門家の方々に相談し、その処方と指導を得ましょう。

学 校

お子さんの最も身近で、お子さんのことをよく見ている担任の先生はもとより、学校全体で対応します。

家庭教育サポーター

地域の身近なところで子育てや家庭教育について気軽に相談ができ、適切なアドバイスや情報提供を行います。主に主任児童委員や民生委員・児童委員がなられています。

子育てについて学びませんか

家庭教育学級

希望する育友会やPTAで活動しています。会員相互の親睦を深めながら、子育てについて話し合ったり、講話を聞いたりして、子育ての力を高めています。

父親子育て地域講座

地域の父親のみなさんを中心に、体験型講座や自主企画の親子活動を通して、家庭教育について学んだり、父親の子育てネットワークを広げたりしています。

お問い合わせ 教育委員会青少年課 TEL 220-2536

読書の大切さと子育ての名言

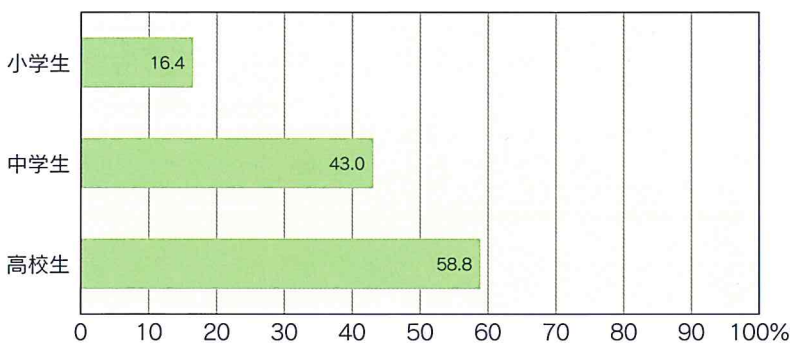
いい本に出会うことは、いい人に出会うことに似ている

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情緒、思いやりの心をはぐくむことができます。ですから、テレビが好きな子にも、本を読む時間を持つように家庭で習慣づけたいものです。

そのためにも、食事の時間のように「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親も一緒に本を読むなど工夫し、子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょう。

また、読書を通じて子どもが感じたり、考えたりしたことに耳を傾け、話し合うなど、親子の会話を増やし深めるきっかけとして読書を活用することも大事です。

1ヶ月に1冊も本を読まなかった子どもの割合



(注)小学生(4~6年生)約3,900人、中学生約3,900人、高校生約4,300人を対象に調査
資料:「読書調査」平成12年・全国学校図書館協議会/毎日新聞社
(家庭教育手帳イキイキ子育てより)

子育てに関する格言・名言・標語 (まとめに変えて)

【基本的生活習慣】

◆一家は習慣の学校なり。父母は習慣の教師なり。

(福沢諭吉)

【家庭・社会のきまり】

◆あやまちを ただす勇気が 親の愛。

(青少年国民会議運動公募標語)

【コミュニケーション】

◆批判ばかり受けて育った子は、非難ばかりします。

励ましを受けて育った子は、自信を持てます。

人に認めてもらえる中で育った子は、自分を大切にします。

(アメリカ先住民の教えから)

【自主・自立】

◆かわいい子には、旅をさせ。

【子育て全般】

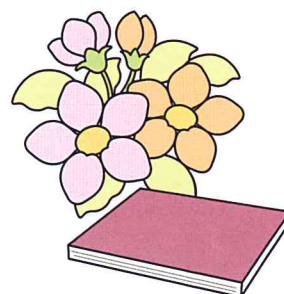
◆子どもを育てるとともに、自分たち自らを進歩させないならば、親は子どもを立派に育てることができない。

(アラン)

家庭教育を考えると参考になる本の紹介

このリーフレットの作成に当たって参考にした書籍を紹介します。より詳しいことをお知りになりたい方は、教育委員会青少年課までお問い合わせください。

- 家庭教育手帳「ワクワク子育て」小学生低・中学年編 文部科学省編 毎年小学校新1年生・新5年生に配布
- 家庭教育手帳「イキイキ子育て」小学生高～中学生編 家庭教育での教育やしつけに関して、それぞれの家庭で考えていただきたいことをまとめたもの。図表やまんがもあって手に取りやすい。
- 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省編 ぎょうせい発行
よく使われる“思春期”の特性を説き、併せて家庭の在り方を述べている。子どもの問題行動を具体例で示し、対処の仕方にまでおよんでいる。いつでもお手元に置いておくことを勧めたい。
- 図説 小中学生は今 財団法人日本女性学習財団編
家庭教育の今日的課題をテーマに、家族や子どもをめぐる実態や意識の変化を各種データを基にわかりやすく図説化したもの。子どもの実態と対応の仕方を知るための格好の本。
- 平成13年度小中学生の生活意識調査報告書 金沢市教育委員会
金沢市の子どもたちの生活の様子と学校や社会への思いがよくわかる貴重な記録である。



家庭教育ビデオの紹介

- 子どもとしつけ 文部省 16分
- 子育ての極意ゆっくりゆったり 文部省 17分
- 「素晴らしき思春期」 文部科学省 26分 思春期の子育てのヒント
- 「生きる力」喫煙、飲酒、薬物乱用防止のために 財団法人 日本学校保健会 58分
- 青少年の自主性と社会性を育む地域づくり 社団法人 青少年育成国民会議 23分
- メル友募集に潜む落とし穴 東映株式会社 教育映像部 21分
- 凶器にもかわる携帯電話 東映株式会社 教育映像部 20分

家庭教育の学習会等にご利用ください。連絡は青少年課 TEL 220-2536まで

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えていけば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はよいところだと思えるようになる

ドロシー・ロー・ノルト/レイチャル・ハリス 著 石井千春 訳
PHP研究所発行「子どもが育つ魔法の言葉」より

家庭教育のすすめ

編集・発行 金沢市教育委員会 青少年課
平成16年10月